

HSBC ホールディングス plc

2009 年度年次決算

HSBC 
The world's local bank

メディアリリース



www.hsbc.com

2010年3月1日

HSBCホールディングス plc
2009年最終決算－ハイライト

基調的な業績は大幅な上向きに

- 2008年に北米で発生した営業権減損損失を除く2009年の税引前当期純利益は47億米ドル(56%)増の133億米ドル。
- 報告ベースの税引前当期純利益は24%減の71億米ドル。
- 報告ベースの株主帰属利益は2%増の58億米ドル。
- 2008年に北米で発生した営業権減損損失を除外すると、収益は8%増、経費は4%減少、コスト効率比率は47.5%と改善基調を維持。
- 2009年の配当金総額は59億米ドル(または普通株式1株当たり0.34米ドル)で、普通株式1株当たり0.10米ドルの第4中間配当を宣言。
- 大手金融機関の中では配当を支払っている数少ない企業の1社。HSBCは過去3年間にわたり総額で240億米ドルを上回る配当を計上。
- 1株当たり利益は17%減の0.34米ドル(2008年:0.41米ドル)。

資本の増強と高い流動性ポジションを確保

- 四半期ごとに資本を創出。収益の向上を背景に資本を102億米ドル増強。
- 成功裏に終わった株主割当発行により、株主資本は178億米ドル増加。
- 資本力を強化。Tier 1資本比率は目標レンジを上回る10.8%に到達。
- 際立って高い流動性ポジションを確保。預入金は1兆米ドルを超過し、2009年12月31日現在の対顧客預貸率は77.3%。

地域的に/事業的に分散されたビジネス・モデルによって継続的に収益を計上

- 北米を除くすべての地域で黒字を計上したが、需要の低迷とスプレッドの縮小によって業績は低迷。
- 米国では貸倒引当金が改善。継続している消費者金融事業では、貸倒引当金が16億米ドル減少し、他の地域での増加分を吸収。
- グローバル・バンキング&マーケッツ事業の業績は極めて好調。
- 商業銀行事業では厳しい経済状況下にも関わらずすべての地域で黒字を計上。
- 中国本土では最も有力な国際的銀行という地位を確立。戦略的投資案件の価値が254億米ドルに増加した一方、中国国内の支店網は98支店に拡大。
- 景気下降局面を通じて顧客を支援。英国では新規住宅ローン貸付に対して150億ポンドのコミットメントを設定。

景気回復に備えて優位な地位を維持

- 景気回復スピードの二極化。2010年の新興国経済は先進国の3倍のスピードで成長する見通し。
- CEOの主な拠点を、戦略的に最も重要な地域の中心である香港に移転。
- 規制環境は依然として不透明だが、HSBCの優位性を際立たせる強固な資本力と高い流動性、また透明性のある企業構造を維持。
- HSBCは世界で最も価値のある金融機関のブランド、ならびにユーロマネー誌からは「ベスト・グローバル・バンク」に選出。

HSBC ホールディングス plc の 2009 年税引前当期純利益は 70 億 7,900 万米ドル

HSBC の税引前当期純利益は 70 億 7,900 万米ドルと、2008 年に比べ 22 億 2,800 万米ドル (23.9%) 減少。

純利息収益は 407 億 3,000 万米ドルと、2008 年に比べ 18 億 3,300 万米ドル (4.3%) 減少。

貸倒引当金およびその他の信用リスク引当金繰入額控除前の純営業収益は 661 億 8,100 万米ドルと、2008 年に比べ 155 億 100 万米ドル (19%) 減少。

営業費用総額は 343 億 9,500 万米ドルと、2008 年に比べ 41 億 4,000 万米ドル (10.7%) 減少した (営業権減損を除く)。基調ベースで見た場合、営業権減損を除く*営業費用は 4%の減少。

HSBC のコスト効率比率は 2008 年の 47.2%*に対し 52.0%へと増加。

2009 年の貸倒引当金およびその他の信用リスク引当金繰入額は 264 億 8,800 万米ドルと、2008 年に比べ 15 億 5,100 万米ドル増加。

2009 年 12 月 31 日現在のグループのコア Tier 1 資本比率と Tier 1 資本比率はそれぞれ 9.4%および 10.8%と高水準を維持。

2009 年 12 月 31 日現在のグループ総資産は 2 兆 3,640 億米ドルと、2008 年 12 月 31 日以降 1,630 億米ドル (6.5%) 減少。

* 営業権減損を除く。営業権減損を含む 2008 年のコスト効率比率は 60.1%。

* 図表またはコメントにおける「基調となる」または「基調ベース」という表現は、恒常通貨ベースで表現され、HSBC の自社債務クレジット・スプレッドに係る公正価値の変動の影響を除去したほか、企業買収および事業売却に伴う影響を調整している。報告ベースおよび基調的な税引前当期純利益の調整は追加情報の項目に表示されている。

地域別の営業成績

	12月31日に終了した事業年度			
	2009年		2008年	
	百万 米ドル	%	百万 米ドル	%
欧州	4,009	56.7	10,869	116.7
香港	5,029	71.0	5,461	58.7
その他アジア太平洋地域	4,200	59.3	4,722	50.7
中東	455	6.4	1,746	18.8
北米	(7,738)	(109.3)	(15,528)	(166.8)
ラテン・アメリカ	1,124	15.9	2,037	21.9
税引前当期純利益	7,079	100.0	9,307	100.0
税金	(385)		(2,809)	
当期利益	6,694		6,498	
親会社株主帰属利益	5,834		5,728	
少数株主持分帰属利益	860		770	

事業別の営業成績

	12月31日に終了した事業年度			
	2009年		2008年	
	百万 米ドル	%	百万 米ドル	%
個人金融サービス事業	(2,065)	(29.2)	(10,974)	(117.9)
商業銀行事業	4,275	60.4	7,194	77.3
グローバル・バンキング&マーケット事業	10,481	148.1	3,483	37.4
プライベートバンキング事業	1,108	15.6	1,447	15.6
その他	(6,720)	(94.9)	8,157	87.6
税引前当期純利益	7,079	100.0	9,307	100.0

グループ会長、スティーブン・グリーンのご報告

2009年：大きな変り目の1年

多くの重要な点で、2009年は大きな変り目の年になりました。

2009年は世界的な金融市場の混乱が続く中で幕を開けましたが、その後、市場は各国の政府や中央銀行による継続的で、異例の時宜を得た措置によって、先行き不透明な状態から立ち直り、次第に安定してきました。

実体経済は2009年には第2次世界戦後で最も大きく落ち込みました。しかしながら、景況感
は脆弱で、景気回復には波乱が予想されるものの、2009年年末には最悪期を脱したことが鮮
明になりました。

2009年にはグローバルなマクロ経済が先進国から新興国へ移行する動きが加速しました。
HSBCでは、かねてから世界経済の重心はシフトしつつあり、金融危機はそうした傾向を加速
させたに過ぎないと考えてきました。

しかし、大きな難題とリスクに直面していることに変わりはありません。

新興国が世界経済の回復を牽引し、次の時代における世界経済の成長率の大部分を占めると思
われますが、先進国の景気回復の足取りは鈍く、失業率は高止まりしたままです。

そのうえ、世界的な需要の不均衡の是正は始まったばかりです。金融危機により、とりわけ過
剰消費の先進国経済と高い貯蓄率を誇る新興国との不均衡の大きさが浮き彫りになりました。
不均衡の是正には構造的な変化と国際的な協力が必要になるほか、時間もかかります。

当グループは、金融システムの改革を目指す中で、今回の金融危機から重要な教訓を学びまし
た。これらの教訓は、速やかに、または簡単に実践できるものではありませんが、変革を迅速
に行う必要性はかつてないほど高まっています。

顧客を支援し、景気サイクルを通じて安定した業績を達成

HSBCは今回の金融危機を通して黒字を確保し、強固な財務基盤や、株式会社としての独立性
を維持してきました。

2009年の基調的な業績が2008年を大幅に上回ったことはHSBCの経営陣の質の高さと優秀さ
の証しです。基調ベース、かつ2008年に計上された営業権減損の影響を除く税引前当期純利
益は、前年比56%増の133億米ドルを計上しました。自社債務の公正価値の変動に伴う会計
上の利益が赤字に転落したことが響き、報告ベースの税引前当期純利益は24%の減の71億米
ドルにとどまりました。

金融危機が発生して以来、HSBCが3年間にわたり每期税引前純利益を計上できたことは、株
主の皆様、預金者およびすべてのお客様の大きな信頼に応えるものです。当グループは逆境下
において、また景気サイクルに左右されることなく一貫して安定した業績をあげてきました。

当グループは 2009 年も財務力の強化に努めました。当グループは基調ベースの利益創出を通じて自己資本を 102 億米ドル強化しました。この金額は、2009 年に宣言された配当金総額 59 億米ドルを十分に賄えるものです。取締役会は普通株式 1 株当たり 0.1 米ドルの第 4 中間配当を公表し（支払日は 2010 年 5 月 5 日）、金融サービス・セクターで配当を支払っている大手金融機関の 1 社であるという立場を維持したほか、過去 3 年間に宣言された配当の総額は 240 億米ドルを上回っています。

2009 年 4 月に株主割当を完了したことにより、自己資本は 178 億米ドル増加し、市場の回復傾向を定着させる要因になりました。株主割当発行の成功は、当グループの将来に対する株主の皆様からの強い信頼感を示すものであり、ご支援に対して心から感謝申し上げます。

当グループは、株主割当増資時に、同増資が完了すると Tier 1 資本比率は約 150 ベーシス・ポイント上昇するという予想を示しました。2009 年 12 月 31 日現在の当グループの Tier 1 資本比率が、主に株主割当と期中の資本創出によって 250 ベーシス・ポイント上昇し、10.8%に達したことを謹んでご報告申し上げます。2009 年 12 月 31 日現在のコア Tier 1 資本比率は 9.4%で、約 240 ベーシス・ポイント上昇しました。

当グループは、今回の金融危機を通じて国際的な市場と新興国市場における有力銀行という地位を確固たるものにするという明確な戦略を堅持してきました。経済と社会の発展に実質的な貢献をすることは当グループの責任であり、このことが株主の皆様から持続的な価値を提供するための基本であることも忘れたことはありません。

当グループが事業を展開している世界中のコミュニティに対するコミットメントを履行することは、オプションや副産物ではなく、当グループの存在理由そのものです。アルゼンチンでは、10 年前にペソ危機に見舞われた時も HSBC はお客様を見捨てず、それ以降もアルゼンチン市場に対するコミットメントを維持してきました。アルゼンチンにおける 2009 年の基調的な業績は過去最高を更新し、2010 年 1 月には当グループに対する現金配当を再開しました。中国本土では、有力な国際的銀行という立場を誇りに思うとともに、2009 年を通して引き続き農村部で強力なプレゼンスを構築してきました。インドネシアでは、個人および法人顧客の資金調達ニーズの増大に応えるため、支店網をほぼ倍増したほか、アラブ首長国連邦では 2010 年 1 月に SME（中小企業向け）ファンドを設定しました。これらは、将来の繁栄の基礎を築き、家族やコミュニティの安全確保に向けた人々の備えを支援するという当グループのコミットメントを示すほんの一例にすぎません。

強固なコーポレート・ガバナンスと経営陣の比類ない経験

当グループは、2009 年にグループ・チーフ・エグゼクティブのマイケル・ゲーガンが当グループの業績全般を統括する責任の一環として戦略の策定を担当すると発表しました。当グループは、グループ・チーフ・エグゼクティブの主な拠点を香港に移したほか、ゲーガンが 2010 年 2 月 1 日付けでヴィンセント・チェンの後任として香港上海銀行の会長に就任しました。こうした動きは、新興国事業に対する当グループのコミットメントを裏付けるものであり、グローバル経済で進行している歴史的な転換を反映したものです。

HSBC は引き続き英国にグループの本部を置き、世界屈指の金融センターの 1 つであるロンドンの中心地に所在する恩恵を享受します。私は当グループの会長として、英国を拠点に、銀行業界全般および特に HSBC にとって重要で、増加の一途を辿っている政策上の諸問題に関し、当グループの代表として世界中の金融当局や規制当局と接触する時間を増やしています。

HSBC では、極めて優秀で、多様性に富み、業務を熱心に遂行する取締役会および豊富な国際経験と専門知識を持った経営陣を擁し、他社との差別化を図っています。当グループは効率的な監督の実施および英国のウォーカー・レビューで規定されている原則の遵守に専念しています。2009年には経営上層部を強化するため、追加的な措置を講じました。サンディ・フロックハートは個人向け事業と商業銀行事業の会長に任命され、個人金融サービス事業、商業銀行事業、保険事業、HSBC のラテン・アメリカ事業およびアフリカ事業のほか、当グループの本社機能の大部分を統括します。スチュアート・ガリバーを欧州事業、中東事業およびグローバル事業部門の会長に任命し、グローバル・バンキング&マーケッツ事業に加え、プライベート・バンキング事業も統括させます。最高財務責任者（CFO）、リスク・規制担当のエグゼクティブ・ディレクターを兼務しているダグラス・フrintの統括範囲を拡大し、規制・コンプライアンス部門の担当も付託しました。サンディ・フロックハートの後任としてピーター・ウォン香港上海銀行のチーフ・エグゼクティブに任命しました。

この場をお借りし、過去5年にわたり香港上海銀行の会長として当グループに多大な貢献をしてきたヴィンセント・チェンに謝意を表するとともに、取締役会の主要メンバーおよびHSBC銀行（中国）有限公司の会長として引き続き同氏と一緒に働けることを楽しみにしています。

また、2010年の定時株主総会において任期満了で退任し、再任を予定していない3名の取締役、ホセ・ルイス・デュラン、ウィリアム・ファンおよびマーク・ムーディー=スチュアート卿に対しても取締役役に代わり心から感謝申し上げたいと思います。彼らと共に働く機会を得たことは至上の喜びであり、取締役会のメンバー全員が彼らの助言と支援に対して心から感謝しています。

今回の金融危機からの教訓

2009年には、持続的なグローバル化と繁栄を謳歌するためには、市場原理と有効な規制に基づく開放的な世界経済や、強力なグローバル金融機関の存在が必要になるという明確な考えがG20会合で採択されました。HSBCでは、これらの原則が公共の利益にとって極めて重要であることに同意しています。産業界がこうした理念の実効性を高める方法について前向きな議論を展開することや、HSBCがこうした議論に全面的に参加することは極めて重要です。当グループでは、3つの有効な市場メカニズムの実現を全般的な目標にする必要があると見ています。

競争力のある商品を提供することは、経済と社会の発展にとって重要です。最近では、1つの事業からこれまでにない高い利益をあげようとする試みは、商品設計の歪み、透明性の欠如および過度の複雑性を招きました。金融界は今回の金融危機から教訓を学ぶとともに、競争力があり、透明性が高く、顧客の真のニーズに応える金融サービスを提供する市場を創造する必要があります。

資金調達市場もこの数年に鮮明になってきた市場の歪みの影響を受けました。短期的な利益の追求があまりにも重視され、時には株主からリターンを増大させるためレバレッジを高めるべきであるという圧力を受けるとともに、リスク軽視という危険な風潮を招きました。その結果、リターンは不安定になり、時に錯覚にすぎなかったことが判明した事例もあります。銀行は自己資本比率を適切な水準に保ち、潤沢な手元流動性を確保し、向う見ずな業容の拡大を自粛する必要があるほか、将来にわたって必要かつ持続的な金融システムを構築することがこの目標を適切に実現する上で重要な意味を持ちます。

市場の他の分野における諸問題も一因ではありますが、第三に人材獲得の分野では、迅速な改革を必要としています。一部の銀行で行われていた慣行、とりわけ経営破綻した銀行の経営者が高額な報酬を得ていたことを理由に、当然のことながら、一部の国では大衆の怒りを招いていることも理解できます。我々は、持続不能または錯覚にすぎない日計り的な収益とリンクし、

過度なリスクテイクを奨励した報酬体系や、明確な実績基準を設けることなく複数年にわたって賞与を保証する制度など、看過できない歪んだ慣行を目撃してきました。私は過去3年間にわたり報酬に関する懸念を表明してきました。今後 HSBC で採用する原則を以下にご紹介します。

持続的なパフォーマンスに対する報酬

第一に、銀行が持続性を維持するためには、利害関係者の長期的な利益に奉仕する際に適切な均衡を保つ必要があります。株主に対してはそれぞれの投資に対し持続的にリターンを提供する必要があります。顧客や経済を支援するために必要な資本力を維持するとともに、職員に適切に報いる必要もあります。私自身の経験では、同僚社員は自分の仕事が社会と経済の発展にどのような変化をもたらし、どのように貢献しているかという点に関心を持っています。報酬だけが彼らのやる気を喚起する要因ではありません。それでもなお、報酬は重要ですし、会社は自社の職員を適切に扱う明確な責務を果たさなければなりません。

そのため、報酬は持続的なパフォーマンスと密接に連動させる必要があるほか、会社の業績に貢献しなかった人に報いる必要はありません。報酬はバランスシート上で保有しているリスクと適切に見合うものとし、後にパフォーマンスが不満足なものであることが判明した場合には、繰延および回収の対象にする必要があります。

第二に、長期にわたって競争上の優位性を維持するためには、報酬を市場ベースに設定する必要があります。十分な報酬を支払わないと、会社は優秀な人材を失ってしまいます。HSBC は英国に本社を置いています、世界中で 88 の国や地域で約 30 万人の職員を雇っています。我々は国際的な視点から考える必要がありますが、報酬も例外ではありません。同じく、HSBC のようにロンドンなど世界屈指の金融センターに本社を構える場合には、会社の将来に配慮する立場の者はその考え方や手法に世界各地の市場の実態を反映させる必要があります。

第三に、独立した報酬委員会は報酬に関して厳格に国際的なベンチマーキングを実施するとともに、その結論に基づいて適切に対応する必要があります。HSBC はこの原則に従って 2009 年の報酬を決定しました。

当グループの執行権を有する取締役の業務歴を合計すると約 178 年に達しますが、この実績は金融業界ではほとんど例がありません。当グループは銀行業界では最高の経営陣を擁しており、HSBC が金融危機を通して黒字を維持し、他のほとんどの銀行が無配に転落する中、配当を支払ったことも偶然ではないと考えています。事実、2009 年も株主の皆様に対する配当の総額が賞与の総額を大きく上回りました。当グループは納税者のお金である公的資金を必要にしたことはありません。むしろ、HSBC は過去 5 年間で英国経済に 50 億ポンド近い税金を納めてきました。

HSBC では、賞与は合法的で適切な報酬の一部で、上述された原則を完全に満たしていると強く確信しています。G20 会合では HSBC が全面的に支持している明確な指針が定められたほか、英国金融サービス機構 (FSA) の報酬に関する倫理綱領も遵守しています。事実、2009 年に決定した執行権のある取締役に対する賞与の全額を 3 年にわたって繰り延べる措置はこうした指針よりも厳格なものです。

パフォーマンスに見合った適切な報酬の中には、長期にわたって職員に対する市場ベースの報酬の支払いを保証することが含まれています。当グループの取締役会は、銀行業界では、とりわけ重要なリスク監督職務の担当者を筆頭に、報酬の総額に対する固定給の比率が上昇すると予想しています。これは正に HSBC が実行したいと考えているプロセスの 1 つで、経営陣も例外ではありません。

取締役会は、このような非常時—とりわけ、HSBC のような立場にある他の会社と比較するまでもなく、いかなる基準から見ても職員の絶対数が多すぎる時—には、報酬は極めて影響を受

けやすいことを十分に認識しています。当グループの慣行は明確かつ透明で、2009年に経営陣に支払われた報酬は3月1日に公表された取締役報酬報告書に記載されています。当グループは、2009年の報酬に関する決定がすべての利害関係者にとって適切なものであると絶対的に確信しています。

将来への持続可能な金融システムの構築

金融当局と金融業界の関係者が金融市場の機能を向上させるために必要な措置を講じるにつれて、取り組むべき重要で包括的な課題も明らかになっています。

金融システムの強化と経済成長の支援の間で適切な均衡を保つことが必要不可欠です。銀行システムにおける「デリスキング（リスク削減の動き）」が行き過ぎてしまうと、景気回復の腰折れを招き、資本市場で規制されていない他の分野にリスクが集中します。2つの命題の間で適切な均衡を保つことは公共の利益に合致します。にわか仕込みの対策を拙速に講じるべきではなく、真の意味でグローバルな産業でリスク管理を向上させるために、国際的な政策協調が取られるべきです。

金融当局はマクロ経済的なツールを新たに発展させ、信用供与だけでなく、融資コストの管理を通じて経済を支援する必要があります。景気循環に合わせて銀行の自己資本を管理し、金融システムの安定と経済成長予測の間で適切な均衡を保つことがこうした取組みの重要な要素になると考えています。マクロ経済を管理するより広範な枠組みを改良しない限り、持続的な金融システムを実現することもできません。

最後に、銀行の適切な規模と形態に関する広範な議論と関連し、本来、企業構造と流動性の管理は少なくとも企業規模と同じくらい重要であることを認識する必要があります。この議論では時折「大きすぎて潰せない」という無益で短絡的な表現が使われますが、現実はこの表現から示唆されるよりもっと複雑です。当グループは、金融システムには多様な事業ポートフォリオを持ち、リスクの削減と安定したリターンの実現を助けることによって「十分な対応能力のある」銀行が必要だと考えています。同様に、ますます多様な財務ニーズを抱えている世界中の顧客に対して、銀行が「奉仕するため業務を十分に多様化させる」必要性も十分に考慮されているとは言えません。要約すると、銀行の理想的なモデルを定めることは望ましくなく非現実的です。今回の金融危機は、システミックな重要性が銀行の規模や重点業務の結果ではないことを明確に証明しました。

HSBCは、つねに、独自に資本を調達した子会社を基本とした透明性の高い企業構造を構築してきたと考えており、流動性の管理に対しては保守的な手法を講じるとともに、世界中の顧客に広範で多様なサービスを提供できる規模で事業を展開してきました。規制変更の詳細とその時期は依然として不明ですが、当グループはこのように基本的な考え方を重視することにより、今後の課題に対して断固として、かつ他社に負けることなく対応できる立場にあると確信しています。

グループ・チーフ・エグゼクティブ、マイケル・ゲーガンによるレビュー

顧客と株主の皆様のための地域的/事業的に分散されたビジネス

昨年のビジネス・レビューの中で、2009年も経済と金融セクターの双方にとって厳しい年になると述べましたが、事実、その通りになりました。

貿易量の減少、投資の縮小および失業率の上昇が重なり、個人および法人顧客は至る所で打撃を受けました。どの地域や業界も例外ではありませんでした。金融市場と資本市場の市況の好転に伴って法人市場における業績が上向いてきましたが、銀行業界に対する世界的な景気後退の影響は広範かつ深刻なものでした。リスク選好度は低迷を続け、デレバレッジの動きが継続したほか、借入需要が伸び悩みました。一方、低金利環境が預金者や預金受託機関の所得に与えた影響は厳しいものになりました。

このように厳しい状況下では、当グループは顧客と密接に連携し、景気下降局面を通して顧客を支援することを優先しています。当グループは高い流動性と強固な資本力を背景に、個人と法人のお客様に対する貸付を継続してきました。当グループは、法人顧客と連携しながら外国為替レートと金利の変動からそれぞれの事業を保護するとともに、債務の調達とリファイナンスを支援しました。当グループは、国際貿易に依存している企業の資金調達ニーズを満たすとともに、多くの国で経済の生命線を握る中小企業に対する支援を続けてきました。当グループは財務体質もさらに強化し、顧客が安心して預金できる場所を提供するよう努めています。

当グループの顧客や銀行業界は多くの課題に直面していますが、HSBCの基調的な業績は2009年に大幅に好転しました。2008年に北米の個人金融サービス事業で発生した営業権減損損失を除く2009年の税引前当期純利益*は133億米ドルとなり、前年の水準を約47億米ドル上回りました。こうした業績の改善はグローバル・バンキング&マーケッツ事業全体の業績回復によって大きく牽引されました。同事業では、異例の高収益をあげ、バランスシート・マネジメントが予想を上回る効果をもたらしたほか、2008年に比べて評価損が大幅に減少しました。これも米国の消費者金融ポートフォリオでの貸倒引当金の大幅な減少を背景にしたものですが、他の市場における貸倒引当金の増加によって相殺されました。

報告ベースの税引前当期純利益は71億米ドルで、前年から24%減少しました。これは、自社債務の公正価値の変動に伴う会計上の利益が赤字に転落したこと、また2008年の利益にはフランスの地方銀行売却益が含まれていたこと、ならびに外国為替レートの変動の影響を反映していますが、2008年には営業権減損損失の発生によって相殺されました。

これらの業績は2009年の初めに立てた予想を大きく上回り、景気サイクルの中で最も厳しい局面を通してHSBCの力強さを証明しました。とりわけ、基調的な業績の回復は当グループの地域的/事業的に分散されたビジネス・モデルの強みを鮮明にしています。2009年にはグローバル・バンキング&マーケッツ事業が異例の好決算を計上したことで、利鞘の大幅な縮小と他の事業部門での需要の後退といった逆風を相殺しました。商業銀行事業はすべての地域で黒字を維持したほか、個人金融サービス事業では米国消費者金融事業の残存事業における貸倒引当金は減少しました。プライベートバンキング事業は安定して黒字を確保したほか、アジアとラテン・アメリカにおける保険料収入は計画を大きく上回りました。当グループの事業の多角化はグローバルな営業範囲と国際的な資金調達ニーズを抱えた顧客に対するサービス力にも反映されています。

2009年、先進国は依然として景気下降局面を脱していませんでしたが、当グループは、経済発展を下支えする卓越した能力を活かせる新興国市場により注力してきました。

*別段の明記がない限り、すべてのコメントは基調ベースのものです。

HSBC は、2009 年を通して、ファンダメンタルズ重視の姿勢を貫いたほか、このような明確な姿勢とバランスが取れたビジネス・モデルのおかげで、世界で最も優良で収益性の高い独立系の銀行という地位を維持したまま 2009 年を終了しました。

業績概要

当然のことながら、2009 年には銀行に対する当局の監視が厳しくなったほか、銀行業界に対しては引き続き厳しい視線が向けられました。当グループはそのような状況下でお客様からの継続的な支援を当然のことと捉えたことはなく、お客様の支援に感謝しています。

経済活動の鈍化と、特に先進国を中心にした低金利政策が預金残高に影響を与えたにも関わらず、預金量は 1 兆 1,590 億米ドルと、高い水準を維持しました。この水準は、市場の混乱を受けて預金量が大幅に伸びた 2008 年年末並みの水準です。経済情勢が深刻さを増す中、借入需要が低迷したことを勘案すると、貸付残高も底堅く推移していると言えます。商業銀行事業の顧客数は 10%増加し、320 万社に達しています。個人金融サービス事業では、HSBC は引き続き HSBC プレミアの顧客を獲得し、顧客数は 340 万人に増加しました。2010 年 2 月には、既存の HSBC プレミアに加えて HSBC アドバンスを導入しました。より高いレベルのサービスを求める顧客のニーズに焦点を当て、2010 年には 30 ヶ所を超える市場でこの商品を発売する予定です。

HSBC は、つねに当グループの代名詞とも言える財務力を維持する重要性を理解しており、財務力を維持するために 2009 年に講じた方法を以下に記載します。当グループはすべての四半期で資本の創出に成功しました。資本ベースは株主割当増資によってさらに強化され、当グループではこうした資本を株主の皆様へ代わって賢明に使用するつもりです。その結果、当グループの Tier 1 資本比率は約 250 ベーシス・ポイント上昇し、当グループの目標レンジを大幅に上回りました。このような高い資本比率に加え、預貸率を 77.3%と賢明な水準に抑えたことにより、HSBC は銀行業界で、強い財務力を持つ突出した存在になっています。

2009 年には最も厳しい状況下でも、HSBC は株主の皆様へ配当金を支払えることを証明しました。自社債務の公正価値の変動に伴う影響を除く株主資本利益率は 9.2%で、再び当グループの目標レンジを下回りました。しかしながら、景気サイクルのこのような段階での結果には納得して頂けると思います。足元の市場環境と現在検討中の自己資本比率規制の改正案に照らすと、HSBC では、中期的な株主資本の平均額に対する利益率は目標レンジの下限前後の水準に落ち着きそうです。規制案が最終的に確定した際に、当グループは変更後の目標を公表する予定です。

このように先行き不透明な状況下において、引き続き保守的なバランスシートのポジションを構築したことについて言い訳をするつもりはありません。今回の金融危機を通じて、HSBC の銀行業務に対する哲学は変わっていません。すなわち、預金の獲得を第一義とし、貸付をその後に置いています。過去 3 年間はこうした経営手法に対するコミットメントを強めただけです。このような異例の低金利環境では、短期的には痛みを伴います。

しかし、新たに収益を伸ばす機会が出現し、金利環境がさらに正常化してくると、次の景気サイクルではこうした手法から付与される流動性が当グループ最大の強みになると確信しています。

2006年にグループ・チーフ・エグゼクティブに就任した際、私はコスト・ベースをさらに引き下げればHSBCの収益を拡大できるはずだと考えました。2009年に増益を実現するのは明らかに困難でしたが、収益は8%増加して724億米ドルに達したほか、2008年の営業権減損の影響を除くコストは4%減少し、344億米ドルとなりました。

同じ基準に基づく、当グループのコスト効率比率は48%から52%という目標レンジに対し、予定通り、47.5%となりました。

One HSBCプログラムはコスト効率の改善を進める重要な政策の1つになっています。当グループは、商品、プロセスとテクノロジーの統合、業務運営方法の改善と簡素化を目指して、2007年にこのプログラムを開始しました。2009年には、同プログラムは次の段階に進み、地域毎にコスト効率の改善を推進する拠点を置き、ビジネス・モデルの移転と標準化を目指します。つねにすべての事業部門と地域で商品とサービスを均しく高い基準で管理することにより、当グループは顧客に対するサービスを強化し、より低いコストで均一のサービスを提供することを目標にしています。

信用の質：改善を示す初期の兆し

当グループの貸倒引当金およびその他の信用リスク引当金は9%増加し、265億米ドルとなりましたが、グローバルな景気後退の深刻さと先進国のほとんどで失業率が上昇したことを勘案すると、こうした結果は許容範囲内であると考えています。米国消費者金融部門の残存事業では2008年に比べて貸倒引当金が16%減少しました。一部の市場で無担保貸付の伸びを抑えたこと、引受基準を厳格化したこと、ならびにハイリスク分野に対するエクスポージャーを削減したことなど、過年度に実施した措置の恩恵も引き続き享受しました。

商業銀行事業では、当グループは一部のハイリスク・セクターに対する選好度を引き下げたほか、レバレッジド・ファイナンスと買収ファイナンスに対する選別姿勢を維持しています。貸倒引当金が2008年から大幅に増加したグローバル・バンキング&マーケッツ事業では、減損費用の増加が少数の個別口座に集中し、不動産セクター、投資会社および金融セクターに対するエクスポージャーに伴って損失が発生しました。商業銀行事業では、製造業、総合商社および不動産セクターにローン減損損失が集中しました。

個人金融サービス事業では、引き続き回収プロセスに重点を置き、景気後退の影響を最も大きく受けている市場のハイリスク商品から撤退しました。そのほか、主要な市場におけるHSBCプレミア事業に経営資源を再配分する措置も継続しました。メキシコ、ブラジルおよび英国など、景気後退の影響を最も大きく受けた多くの市場では、2009年下半期には貸倒引当金の増加に歯止めがかかりました。インドでは、第4四半期になって支払延滞件数が減少し始めてきました。

雇用水準の改善は2010年中、場合によっては2011年にかけてGDP成長率に遅行する傾向が続きそうです。しかしながら、現在の景気回復サイクル局面で回復の兆しが現われているのは心強い限りです。景気と失業率の動向が当グループの予想通りの展開を見せた場合には、予測不可能な事象がない限り、2010年には貸倒引当金が減少すると見込んでいます。

将来に向けた事業の位置付け

当グループは、2007年に、次の3つの重要なグローバル長期予測に基づいて策定したグループ戦略を以下のように発表しました。新興国経済が先進国を上回るスピードで成長すること、世界全体の貿易額がGDPを上回る伸びを見せること、ならびに人口の高齢化が進むことです。今年前半、取締役会は、当グループが進出している地域での変化を反映させるとともに、そうした変化を先取りできることを確認するために、戦略の見直しを行いました。そして、こうした3つのファンダメンタルズに変化がないことが明らかになっています。

今後10年間にわたり、新興国が世界全体の経済成長の大部分を占有すると見込まれています。そのため、当グループは主にこうした急成長市場への投資に注力していきます。世界全体の貿易額もGDPより先に回復すると考えています。商業銀行事業では、当グループの貿易金融、支払決済、国際的な連携を高めることが新興国と先進国の両市場において引き続き重要な要素になります。最後に、多くの主要な新興国を含め、人口の高齢化が進んでいるため、ウェルス・マネジメント商品に対する需要が増大しています。そのため、当グループの個人金融サービス事業では資産管理に重点を置くほか、生涯にわたって商品やサービスを提供することによって顧客との関係を深めていくつもりです。

貿易と富のパターンの変化を受けて、当グループはグローバルな拠点網、企業規模および専門性を背景に競争上優位な立場にある市場、商品および事業分野に徹底して重点を置いていきます。世界の変化に伴って、世界全体の経済活動の中心に位置することも重要です。2010年2月、HSBCはグループ・チーフ・エグゼクティブの拠点を、中国本土の玄関口で、アジアの貿易と経済成長の中心である香港に移しました。この動きは当グループがこの地域に深く根ざしているほか、事業形態が変化してきたことも反映しています。これは当グループの戦略的な決定であり、世界で最も急成長しているすべての市場でHSBCの業務を拡大するコミットメントの強さを示す象徴的な決定でもあります。

グローバル・ビジネス

グローバル・バンキング&マーケット事業：持続可能なビジネス・モデルと異例の好業績

グローバル・バンキング&マーケット事業の2009年の税引前当期純利益は105億米ドルとなり、2008年の30億米ドルから大幅な増益を達成しました。この結果は、新興国市場主導で、資金調達に重点を置いたHSBC独自の戦略が奏功したことを明確に示しています。2008年に比べると評価損が51億米ドル減少したほか、トレーディング収益の拡大をもたらしたボラティリティの上昇や、資本市場業務が極めて低調な水準から活況を呈してくるなど、市況が大きく好転しました。同時に、グローバル・トランザクション・バンキングの収益は低金利環境の影響を受けて伸び悩み、貸倒引当金は景気の悪化を受けて2倍を超える17億米ドルに増加しました。

地域別では黒字を達成した地域が分散したほか、急成長を続ける市場が利益全体の50%以上を占めました。収益も様々な対顧客ビジネスに分散しました。2009年には金利とクレジット事業で収益を計上しました。当グループは引き続き資金調達能力を強化し、デット・キャピタル・マーケットにおける市場シェアを大幅に伸ばしました。HSBCは2009年にユーロ加盟国16ヶ国の政府が発行した債券のうち、12件で主幹事または共同主幹事を務めました。当グループは個別取引を中心にしたこれまでの関係を見直し、広範な収益源に発展する最大の機会を得るために、ユーロ諸国との関係を強化してきました。

競合他社が事業の縮小を余儀なくされる中、HSBC は中核となるビジネスの市場シェアを拡大しました。HSBC はユーロ圏におけるすべての起債を合計したブルームバーグのユーロ市場債券リーダーステーブルで第 1 位にランクされました。HSBC は、ユーロマネー誌から初めて「ベスト・グローバル・デット・ハウス」に選出されたほか、FX Week 誌のベスト・バンク・アワードのうち、新興国市場の 3 部門のすべてで受賞しました。

バランスシート・マネジメントでは、当グループは金利エクスポージャーの管理と、可能な場合には商取引に伴って発生した余剰資金の投資リターンの増大に努めています。事前に金利の低下を見越したポジショニングが奏功し、財務収益を 54 億米ドルへ大きく伸ばしました。利回りの高い一部のポジションが満期を迎えるため、2010 年の財務収益は減少すると予想していますが、足元の金利環境にはこうした影響を軽減するチャンスもあります。

当グループの多角的で、顧客重視のビジネス・モデルに加え、当グループの企業規模と国際的なプレゼンスを背景に、グローバル・バンキング&マーケッツ事業は収益を維持するとともに、市場シェアを高める地位にあると確信しています。

売却可能な投資有価証券のポートフォリオの中では、流動性の上昇に伴って有価証券の価格が上昇してきたほか、当グループが投資有価証券として保有する資産担保証券のポートフォリオは引き続き予想通りのパフォーマンスを見せました。報告ベースでは、2009 年に 14 億米ドルの減損を認識したほか、3 億 7,800 万米ドルの損失を予想していますが、これはすでに公表された業績見通しに沿ったものです。満期前償還と償却を受けて 2009 年にはポートフォリオの簿価が 9%減少して 459 億米ドルとなったほか、流動性の改善と価格の上昇に伴って売却可能な投資有価証券による引当金の不足額が 65 億米ドル減少して 122 億米ドルとなりました。

プライベートバンキング事業：急成長を続ける新興国市場を重視

不透明感が深まる中、プライベートバンキング事業の顧客の投資に対するリスク選好度とクレジットに対する需要が減少したため、顧客から上げた収益は減少しました。プライベートバンキング事業は 11 億米ドルの税引前当期純利益を計上し、2008 年に比べ 21%の減益になりました。

当グループは、将来の成長のための収益機会と、富がシフトする動きに合わせて、主要なすべての新興国市場でのプレゼンスと事業の拡大を続けています。先進国における市場環境の悪化に牽引され、新規資金の正味流入額は全体的に減少しました。しかしながら、新興国から流入した資金に加え、グループ会社間の紹介によって 66 億米ドルの正味資金が流入したことは当グループにとって明るい材料です。

広範な経済トレンドおよび極めて競争が激しい状況下では預金の獲得を目指さないという決定にも関わらず、報告された顧客資産の総額は 6%増の 4,600 億米ドルとなりました。当グループはスイスにあるプライベートバンク 2 行の合併を完了したほか、2009 年には多くのニッチ商品とオルタナティブ・マーケット商品を発売しました。

新興国市場

アジアにおける事業構築—世界で最も急成長している地域

当グループは 2009 年にアジア太平洋地域事業で 92 億米ドルの税引前当期純利益を計上しました。このうち香港が 55%、その他のアジア太平洋地域が 45%を占めています。アジア太平洋地域全体では 8%の減益になりましたが、経済環境と金利環境の厳しさが増したことを勘案すると良好な業績であり、この地域が継続して当グループの収益に最も大きく寄与しました。

2009 年上半期には、アジアの多くの国で経済が貿易量と投資フローの減少によって打撃を受けましたが、2009 年下半期には経済活動のほか、信用供与とウェルス・マネジメントに対する需要が改善しました。中国経済は依然として急成長を続けており、景気刺激策が有効に機能したことを証明し、雇用水準も健全な水準を維持しました。その結果、輸出需要と内需がともに回復し、域内外で貿易額が増加しました。

当グループは、自力成長と戦略的なパートナーシップ構築の両方を通じた成長戦略を継続して実行しました。預金量は 8% 増加しました。2009 年下半期には貸付業務が上向き、マレーシアでは SME（中小企業向け）ファンドを立ち上げたほか、香港では貸付コミットメントを増額することによって中小企業を支援しました。保険事業では、アジア太平洋全域で保険料収入と収益が大幅に増大しました。

香港では最大手銀行としての地位をさらに強固にしました。預金量が伸びたほか、38% という保守的な平均融資比率が当グループの良好な資産内容の下支えになり、クレジットカードと住宅ローン貸付分野でもマーケットリーダー的存在に成長しました。さらに、バンカシュアランス最大手という地位も強固にしました。貸倒引当金は 2008 年から 35% 減少し、当グループのローン・ポートフォリオの質と底堅さを示しています。

HSBC が有力な国際的銀行になっている中国本土では、支店網をさらに拡大し、間もなく HSBC ブランドを冠した 100 店目の支店を開設する予定です。戦略的パートナーとの関係構築も当グループの成長戦略に対する主な柱になっています。2009 年には、時価総額を基に算出された戦略投資の金額は、報告ベースで 113 億米ドル増加し、254 億米ドルに到達しました。当グループは合弁で新保険会社を立ち上げたほか、中国交通銀行との合弁でクレジットカード会社を設立する意向を発表しました。当グループがすでに獲得している 1,100 万枚を超えるカードをこの新会社に移転する予定です。人民元を戦略的に国際貿易決済通貨に育てる試みも支援しています。当グループは国際的銀行としては初めてクロスボーダー取引を人民元で決済し、AESAN 加盟 7 ヶ国で貿易決済サービスを立ち上げました。

当グループは、経済に対する強気な見通しに合わせてその他のアジア太平洋地域でも継続してオペレーションの統合と拡大を行いました。ASEAN 加盟諸国の中では最も急成長すると予測されている国の 1 つ、ベトナムにおいて、HSBC は現地法人を設立した初めての外国銀行になり、今年前半には国内最大手の保険会社に対する出資比率を引き上げました。インドネシアではバンク・エコノミの買収を完了し、世界で 5 番目に多い人口を抱えるインドネシア国内で支店数をほぼ倍増させ、現在は 200 を上回る支店を開設しています。個人向け事業では、シンガポールとマレーシアで高い成長を見せた HSBC プレミアサービスに重点を置いてきました。この戦略に合わせて、インドとインドネシアでは消費者金融事業から撤退しました。

逆風を受けた中東経済

HSBC が有力な国際的銀行としてプレゼンスを持つ中東地域にとって 2009 年は極めて厳しい年になりました。中東地域は、資金流入額の減少、原油収入の急激な落込み、不動産価格の下落、およびドバイの過剰債務問題に対する懸念の影響を強く受けました。2009 年下半期には原油価格が回復しましたが、信用状態は依然として厳しいままでした。

このような厳しい状況の中、HSBC は 2008 年比で 74% 減の 5 億米ドルの税引前当期純利益を計上しました。預金と貸付が全体的に減少しました。貸倒引当金が危険な水準まで増加したため、当グループは適切な措置を講じて減損費用を削減するとともにリスクを管理しました。当グループでは中東地域に対するエクスポージャー、および域内のエクスポージャーを許容できるレベルまで分散させています。

HSBC は一世紀以上にわたって中東で事業を行ってきました。当グループは、この地域の当局は必要な環境を整備し、継続的な経済成長を支援すると確信しており、年内か来年には中東経済が回復すると予想しています。中東地域は今後も国際的な貿易動向と投資フローの中心にある重要な市場であり続けると予想しています。当グループの中東地域に対するコミットメントは不変で、2010年1月にはアラブ首長国連邦でSME（中小企業向け）ファンドを立ち上げ、法人のお客様を支援しています。

ラテン・アメリカの見通しは好転

HSBC のラテン・アメリカ事業は、経済状況の悪化や、メキシコでの鳥インフルエンザの影響、ならびにラテン・アメリカ全域での貸倒引当金の上昇を受けて、税引前当期純利益は2008年比33%減の11億米ドルとなりました。

当グループは2009年に個人向けの事業を見直すという戦略的な決定を行いました。2008年には延滞件数が増加し、リスクの高い個人向けの貸付とクレジットカード債権のポートフォリオを削減しました。メキシコとブラジルでは消費者金融と個人向け事業を行っている支店の数を削減するとともに、ブラジルでは特に成功を収めているHSBCプレミアの事業機会に重点を置きました。ラテンアメリカでは保険料収入も伸びました。

2009年には経済状態が改善してきました。第2四半期にはブラジル経済がプラス成長に転じたほか、メキシコでも2009年下半年には鳥インフルエンザの影響が終息し、米国との貿易が上向いてきたことを受けて改善し始めてきました。ラテン・アメリカ地域では2009年後半に貸倒引当金が減少しました。当グループでは引き続きラテン・アメリカ地域を将来の成長可能性を秘めた地域と見ており、2009年末にはメキシコとブラジルの事業に新規資金13億米ドルを投下しました。この追加資金によって財務力は強化され、メキシコ経済とブラジル経済の拡大に伴って増大する顧客のニーズを満たす助けになります。

先進国市場

米国－消費者金融事業の改善

米国では、個人金融サービス・セクターを中心に厳しい状況が続いていますが、2009年下半年には米国経済がプラス成長に転換しました。失業率は2桁の水準に上昇し、住宅価格全般の下落にも歯止めがかかっていません。ただし、税額控除対象への指定と低金利が住宅市場の動きを下支えした中、低価格の住宅セクターを中心に、2009年下半年には住宅価格の下落幅は小さくなってきました。

米国の個人金融サービスは、営業権減損損失の影響を除外すると、53億米ドルの税引前当期純損失を計上しましたが、2008年に比べると赤字幅は22%縮小しています。当グループは個人向け貸付業務を行っているすべての支店の閉鎖を完了し、それに伴って発生したリストラ費用も予想を大幅に下回る1億5,000万米ドルにとどまりました。当グループは継続して残存事業の縮小を積極的に進めました。

HSBC ファイナンスは2009年末に当グループの他の事業体と償却期間を調整し、延滞債権の残高を大幅に減額しました。残存事業におけるローン・ポートフォリオ残高の総額は全体で220億米ドル減少し、790億米ドルとなりました。

当グループは、ランオフ戦略の進展を示す米国自動車ローン事業と自動車ローン 10 億米ドルの売却を発表しました。2007 年第 1 四半期に自動車ローン・ポートフォリオの売却を開始して以来、当グループは自動車ローンの残高を 470 億米ドル（37%）削減してきました。

償却期間の変更に伴う影響を除外すると、延滞債権の残高は季節的な要因から 2009 年下半期には通常と同様に増加しましたが、過年度に比べると増加額は大幅に縮小しました。顧客の大部分が合意した返済を継続して履行しており、2009 年には 10 万 4,000 件を上回るローン（元本総額は 146 億米ドル）の返済条件を変更することによって返済が困難になっている顧客を支援しました。こうした傾向を受けて、米国消費者金融残存事業におけるローンの劣化件数は 16%減少しました。

HSBC 銀行 USA では、2009 年に商業銀行事業と個人向け事業の両方で預金量が増加しました。当グループは 45 億米ドルのプライム・モーゲージを売却したほか、HSBC プレミアサービスの利用者数を 37%増やしました。クレジットカード事業でも好調な業績をあげました。厳しい経済環境の中、カード事業は黒字を確保していますが、ポートフォリオ全般は減少しました。

しかしながら、状況の好転を受けて一部のセグメントではカードの新規発行件数を伸ばすためのマーケティングを再開しました。

欧州事業は底堅い動き

HSBC の欧州事業は、欧州経済が深刻な問題に直面する中、引き続き底堅い動きを見せました。欧州事業の税引前当期純利益は 83%増の 66 億米ドルに到達し、グローバル・バンキング&マーケッツ事業が増益分の 69%に寄与しました。2009 年の報告ベースの税引前当期純利益は 40 億米ドルでした（2008 年は 109 億米ドル）。

英国経済では景気後退の影響が鮮明に現われました。他の先進国に比べると景気下降局面は長引きましたが、低金利と量的緩和策が借り手に対する影響を緩和させる助けになりました。しかしながら、低金利環境は当グループのスプレッドにも悪影響を与えました。HSBC はこのように厳しい期間を通して顧客に対する支援を続けてきました。当グループは 2009 年全体で 150 億ポンドにのぼる新規住宅ローンのコミットメント（平均融資比率は 55%未満）を設定したほか、新規住宅ローン貸付の純増額に占める市場シェアを 11%に拡大しました。法人顧客の間では借入需要が低迷を続けているほか、当座貸越枠の利用比率は 40%にとどまっており、借入需要が回復するときに備えて貸付を行う体制を整えています。当グループは中小企業支援というコミットメントの一環として 12 万 1,000 社を超える企業の新設を支援し、8 億ポンドの貸付を実行しました。貿易関連の貸付も 30%以上増加しました。

当グループのフランス事業は全体では極めて好調な業績をあげ、グローバル・マーケッツ事業の大幅な増収および個人向け金融サービス事業と商業銀行事業の底堅い業績を背景に、8 億 2,700 万米ドルの税引前当期純利益を計上しました。

HSBC はトルコでも非常に好調な決算を達成しました。2009 年にはトルコ経済が大幅に縮小し、失業率が過去最高水準の近くまで上昇したにも関わらず、税引前当期純利益は 2008 年の水準を大きく上回る 2 億 6,100 万米ドルとなりました。当グループでは、トルコは将来の成長のための重要な市場の 1 つという見方を変えていません。また、トルコ経済が健全な状態に回復してくるとき、過去数年にわたってプラットフォームを拡大してきたことが奏功し、当グループは優位な立場に位置すると見えています。

見通し

2010 年の経済見通し：経済成長の二極化

世界経済が景気後退局面を脱するにつれて、経済成長の二極化が鮮明になってくると予想しています。新興国は 2010 年に 6% を超える GDP 成長率を達成すると予想していますが、先進国の GDP 成長率は 2% に届くかどうかだと見ています。銀行の業績はそれぞれが事業を運営している国の経済状況を映す鏡になりますが、銀行セクターにとっては課題でもあり、収益機会でもあります。

先進国にとっては 2010 年も厳しい年になりそうです。米国と欧州では景気回復の足取りはともに脆弱なままで、これまでの景気後退後の回復期より景気回復のテンポは鈍くなりそうです。貯蓄を再建する必要性から需要は引き続き低迷する可能性があります。各国の政府と中央銀行は、財政支出削減および景気回復・雇用の下支えという 2 つの相対する必要性の間でバランスを保つという難しい判断を迫られています。景気回復を後押しするため低金利政策が継続されますが、当面はスプレッドの拡大も抑えられます。銀行に対する規制変更の影響は今のところ不透明ですが、当グループが重点を置いている急成長市場より先進国の市場の方がその影響を大きく受けると思われれます。

新興国市場が次第に世界経済の牽引役になりつつあります。最新の HSBC 新興国市場指数によると、2010 年には新興国の多くが高い成長率を実現すると示唆されています。長期的には新興国相互の関連性が強まり、先進国への依存度は低下しそうです。経済の重心は今後も東にシフトするため、金融サービス事業の成長機会が訪れそうです。

銀行業界の再編が進むのは必至であり、一部の銀行は業務を統合し、国内市場に重点を戻す可能性があります。そうすると、一部の銀行は資産を売却すると予想されており、HSBC にとっては選別的に事業を買収できる機会が提供されます。当グループは引き続き現われてきた機会を厳格に調査する予定です。

このように先行きが不透明な状況では、HSBC ブランドは引き続き当グループの最も重要な資産の 1 つになっています。2009 年にはインターブランド社から世界で最も価値のある銀行ブランドに選出されたほか、2010 年 2 月にはブランド・ファイナンス社から 3 年連続で No.1 の銀行ブランドに選出されました。当グループの高いブランド力、当グループの代名詞とも言える財務の健全性、広範でバランスのとれたビジネス・モデルや明確な戦略を背景に、HSBC は景気サイクルの次のステージ、ならびにグローバル経済の継続的なシフトに対し、競争上有利な立場に位置すると考えています。

最後に、当グループの 2010 年 1 月の月次決算が予想を上回る好調な業績をあげたことを謹んで報告させていただきます。

社員の皆さんへのメッセージ

2009年も社員の皆さんに対して特別な要求を課す年になりました。多くの社員にとっては、景気下降期に当グループの顧客を支援するために為すべきことが増大しました。それ以外の社員にとっては、外部状況によって当グループのコミットメント実現に2倍の労力が求められる状況下で、いつも以上の精励を求められることになりました。このような厳しい年に当グループ社員のエンゲージメント・スコアが67%から71%に上昇したことは社員皆さんの優秀さとコミットメントの証しです。この数値が業界の平均を大きく上回っていることも心強い限りです。

最後に、私の同僚である社員の皆さんに対して一言申し述べたいと思います。銀行業界に対する評価が大きく低下する中、HSBCが好調な業績を維持できたことは皆さんのプロ意識の高さの賜物です。HSBCが多くのお客様から取引したい銀行という評価を得ていることも皆さんが顧客重視の姿勢をつねに堅持してきたおかげです。心から感謝します。

12月31日に終了した 事業年度		12月31日に終了した 事業年度	
2009年		2009年	2008年
百万ポンド	百万 香港ドル	百万米ドル	百万米ドル
通年			
4,538	54,876	7,079	9,307
3,740	45,224	5,834	5,728
3,615	43,717	5,639	11,301
年度末			
79,031	994,829	128,299	93,591
95,929	1,207,523	155,729	131,460
790,886	9,955,407	1,283,906	1,245,411
1,456,499	18,333,957	2,364,452	2,527,465
698,031	8,786,585	1,133,168	1,147,974
ポンド	香港ドル	米ドル	米ドル
普通株式 1株当たり			
0.22	2.64	0.34	0.41
0.22	2.64	0.34	0.41
0.22	2.64	0.34	1.19
0.22	2.64	0.34	0.93
4.41	55.57	7.17	7.44

株式情報

0.50 米ドル：発行済普通株式	17,408 百万株	12,105 百万株
時価総額	1,993 億米ドル	1,140 億米ドル
株価（終値）	7.09 ポンド	6.62 ポンド

	1年	3年	5年
2009年12月31日までの 総株主リターン***	128.3	103.6	120.6
ベンチマーク：			
FTSE100	127.3	98.0	135.4
MSCI ワールド	116.7	103.6	134.9
MSCI 銀行	125.2	70.6	92.3

* 株主割当発行の無償交付部分の影響は基本ベースと希薄化後ベースの1株当たり利益の中に含まれている。

** IFRS の会計規則によれば、財務諸表に表示される1株当たり配当金0.34米ドルは2009年に表明された配当金の総額である。これは2008年第4中間配当と2009年の第1～3中間期配当の総額を示す。2009年度第4中間配当は2010年に宣言されたため、2010年度の財務諸表に反映される。

*** 総株主リターン (TSR) は「2009年度年次報告書および財務諸表」で定義されている。

	12月31日に終了した事業年度	
	2009年	2008年
	%	%
財務比率		
平均投下資本利益率*	4.1	4.0
平均総株主持分利益率	5.1	4.7
税引後平均総資産利益率	0.27	0.26
税引後平均リスク加重資産利益率	0.58	0.55
効率比率および収益構成比率		
コスト効率比率		
－ 報告値	52.0	60.1
－ 営業権減損損失を除く値	52.0	47.2
総営業収益に対する：		
－ 純利息収益比率	51.8	48.1
－ 純手数料収益比率	22.5	22.6
－ 純トレーディング収益比率	12.5	7.4
自己資本比率		
－ コア Tier 1 資本比率	9.4	7.0
－ Tier 1 資本比率	10.8	8.3
－ 総資本比率	13.7	11.4

* 投下資本利益率は普通株主帰属利益に基づいている。平均投下資本は、平均総株主持分+引当金に直接戻し入れた償却済み営業権－HSBC ホールディングスの平均発行済み優先株－/ (+) 実効的なキャッシュフロー・ヘッジと売却可能有価証券に係る平均未実現利益/ (損失) 準備金として計測される。この計測は当初の投下資本とその後の利益を反映したものである。

12月31日に終了した事業年度			12月31日に終了した事業年度	
2009年			2009年	2008年
百万ポンド	百万 香港ドル		百万米ドル	百万米ドル
39,804	481,368	受取利息	62,096	91,301
(13,696)	(165,629)	支払利息	(21,366)	(48,738)
26,108	315,739	純利息収益	40,730	42,563
13,719	165,916	受取手数料	21,403	24,764
(2,396)	(28,985)	支払手数料	(3,739)	(4,740)
11,323	136,931	純手数料収益	17,664	20,024
3,997	48,344	純利息収益を除く	6,236	847
2,325	28,114	トレーディング収益	3,627	5,713
6,322	76,458	トレーディング業務に係る純利息収益	9,863	6,560
(4,004)	(48,426)	純トレーディング収益	(6,247)	6,679
1,741	21,056	発行済長期債およびその派生商品の公 正価値変動分	2,716	(2,827)
(2,263)	(27,370)	公正価値で表示されるその他金融商品 からの純収益 (損失)	(3,531)	3,852
333	4,031	公正価額で表示されている金融商品か らの純収益	520	197
81	977	金融投資からの利益 (損失控除後)	126	272
6,712	81,171	受取配当金	10,471	10,850
-	-	純既経過保険料	-	2,445
1,787	21,613	フランス地方銀行の売却益	2,788	1,808
50,403	609,550	その他の営業収益	78,631	88,571
(7,980)	(96,512)	純営業収益	(12,450)	(6,889)
42,423	513,038	純既発生保険金および保険契約者債務 の変動	66,181	81,682
(16,979)	(205,335)	貸倒引当金およびその他の信用リスク 引当金前純営業収益	(26,488)	(24,937)
25,444	307,703	貸倒引当金およびその他の信用リスク 引当金	39,693	56,745
(11,839)	(143,164)	純営業収益	(18,468)	(20,792)
(8,584)	(103,818)	人件費	(13,392)	(15,260)
(1,106)	(13,372)	一般管理費	(1,725)	(1,750)
-	-	有形固定資産償却費および減損損失	-	(10,564)
(519)	(6,279)	営業権減損損失	(810)	(733)
(22,048)	(266,633)	無形資産償却費および減損損失	(34,395)	(49,099)
3,396	41,070	営業費用合計	5,298	7,646
1,142	13,806	営業利益	1,781	1,661
4,538	54,876	関連会社および合弁会社からの利益分 配金	7,079	9,307
(247)	(2,985)	税金	(385)	(2,809)
4,291	51,891	当期利益	6,694	6,498
3,740	45,224	親会社株主帰属利益	5,834	5,728
551	6,667	少数持分帰属利益	860	770

	12月31日に終了した事業年度	
	2009年 百万米ドル	2008年 百万米ドル
当期純利益	6,694	6,498
その他包括利益／（損失）		
売却可能投資：	10,817	(21,904)
－ 評価益／（評価損）	9,821	(23,722)
－ 売却により損益計算書に振り替えられた評価益	(648)	(1,316)
－ 減損により損益計算書に振り替えられた評価損	2,391	1,779
－ 法人所得税	(747)	1,355
キャッシュフロー・ヘッジ	772	124
－ 評価益／（評価損）	481	(1,720)
－ 損益計算書に振り替えられた評価益／（評価損）	808	1,754
－ 法人所得税	(517)	90
確定給付年金プラン関連の保険数理差損利益／（損失）	(2,608)	(1,175)
－ 税引前	(3,586)	(1,609)
－ 法人所得税	978	434
その他の包括利益／（損失）のうち関連会社および 合弁会社の持分	149	(559)
為替差額	4,975	(12,123)
当期のその他の包括利益／（損失）－税効果後	14,105	(35,637)
当期包括利益／（損失）	20,799	(29,139)
当期包括利益／（損失）の帰属：	19,529	(29,143)
－ 親会社株主	1,270	4
－ 少数株主持分	20,799	(29,139)

12月31日現在			12月31日現在	
2009年			2009年	2008年
百万ポンド	百万香港ドル	百万米ドル	百万米ドル	
				資産
37,363	470,319	60,655	52,396	現金および中央銀行預け金
3,939	49,587	6,395	6,003	受取為替
10,757	135,407	17,463	15,358	香港政庁債務証券
259,570	3,267,389	421,381	427,329	トレーディング資産
22,903	288,301	37,181	28,533	公正価額で表示されている金融資産
154,546	1,945,370	250,886	494,876	デリバティブ資産
110,745	1,394,022	179,781	153,766	銀行貸付金
552,078	6,949,375	896,231	932,868	顧客貸付金
227,401	2,862,450	369,158	300,235	金融投資
27,432	345,316	44,534	37,822	その他の資産
1,809	22,773	2,937	2,552	当期税金資産
7,653	96,328	12,423	15,797	前払金および未収収益
8,015	100,887	13,011	11,537	関連会社および合弁会社持分
18,476	232,573	29,994	27,357	営業権および無形資産
8,502	107,021	13,802	14,025	有形固定資産
5,310	66,839	8,620	7,011	繰延税金資産
1,456,499	18,333,957	2,364,452	2,527,465	資産合計

12月31日現在		12月31日現在	
2009年		2009年	2008年
百万ポンド	百万香港ドル	百万米ドル	百万米ドル
負債および自己資本			
負債			
10,757	135,408	17,463	15,358
76,921	968,257	124,872	130,084
713,965	8,987,150	1,159,034	1,115,327
3,532	44,461	5,734	7,232
165,168	2,079,080	268,130	247,652
49,337	621,033	80,092	74,587
152,550	1,920,247	247,646	487,060
90,488	1,139,032	146,896	179,693
42,280	532,233	68,640	72,384
1,318	16,594	2,140	1,822
33,084	416,444	53,707	43,683
8,125	102,275	13,190	15,448
1,210	15,237	1,965	1,730
1,132	14,244	1,837	1,855
4,292	54,022	6,967	3,888
18,774	236,326	30,478	29,433
1,372,933	17,282,043	2,228,791	2,427,236
自己資本			
5,362	67,499	8,705	6,053
5,182	65,234	8,413	8,463
1,314	16,539	2,133	2,133
13,697	172,418	22,236	(3,747)
53,476	673,139	86,812	80,689
79,031	994,829	128,299	93,591
4,535	57,085	7,362	6,638
83,566	1,051,914	135,661	100,229
1,456,499	18,333,957	2,364,452	2,527,465

	12月31日に終了した事業年度	
	2009年 百万米ドル	2008年 百万米ドル
営業活動によるキャッシュフロー		
税引前当期純利益	7,079	9,307
調整項目：		
純利益に含まれるキャッシュ以外の項目	31,384	41,305
営業資産の変動	(20,803)	18,123
営業負債の変動	14,645	(63,413)
外貨換算差額消去	(19,024)	36,132
投資活動からの純利益	(1,910)	(4,195)
関連会社および合弁会社の利益シェア	(1,781)	(1,661)
関連会社から受領した配当金	414	655
確定給付年金債務向け拠出金	(974)	(719)
税金	(2,132)	(5,114)
営業活動による純キャッシュフロー	6,898	30,420
投資活動によるキャッシュフロー		
金融投資購入	(304,629)	(277,023)
金融投資の売却および満期による手取金	241,341	223,138
有形固定資産購入	(2,000)	(2,985)
有形固定資産売却手取金	4,701	2,467
ローン・ポートフォリオ売却手取金	4,852	9,941
無形資産純購入	(956)	(1,169)
子会社株式の取得および増加による純キャッシュ流入／（流出）	(677)	1,313
子会社売却による純キャッシュ流入	45	2,979
関連会社株式の取得および増加による純キャッシュ流出	(62)	(355)
資金の連結による純キャッシュ流入	-	16,500
関連会社および合弁会社売却手取金	308	101
投資活動に使用された純キャッシュ	(57,077)	(25,093)
財務活動によるキャッシュフロー		
普通株式資本の発行—株式の発行	18,326	-
普通株式資本の発行—その他	72	467
優先株式の発行	-	2,133
値付け目的および投資目的による自社株式の純購入および売却	(176)	(194)
株式報奨・ストックオプション報奨のための自社株式購入	(51)	(808)
ストックオプションの行使	12	27
劣後ローン資本の発行	2,959	7,094
劣後ローン資本の返済	(4,637)	(350)
親会社株主への配当金	(4,264)	(7,211)
少数株主持分への配当金	(702)	(714)
その他持分保有者への配当金	(269)	(92)
財務活動に使用された純キャッシュ	11,270	352
現金および現金同等資産の純増加	(38,909)	5,679
1月1日時点の現金および現金同等資産	278,872	297,009
現金および現金同等資産に関する外貨換算差額	10,803	(23,816)
12月31日時点の現金および現金同等資産	250,766	278,872